

4 住民等への普及啓発④

Ⅲ 原子力防災現地研修会（全県民対象・平成24年度～）

原子力発電や原子力防災について、県民の方に実際に現地を目で見て理解していただくため、島根原発等の関連施設の見学を含めた原子力防災現地研修会（見学会）を年間3回開催。

	第1回	第2回	第3回
日時	4月20日（土） 10:30～15:20	7月27日（土） 10:30～15:00	11月25日（月） 10:30～15:20
参加者	県民 27名	小中学生とその保護者 37組76名	県民 19名
研修先・ 研修内容	島根県原子力防災センター 【研修内容】 ・放射線の基礎、原子力防災に関する研修 ※第2回は小中学生向けとして実施し、大学講師を招き、実験などを行いながら理解できる内容を設定。 （右写真：第2回実施時の放射線測定器による測定体験の様子）		
	島根原子力発電所・島根原子力館（広報施設） 【研修内容】 ・発電所の見学等を通じた原子力発電及び発電所の安全対策に関する研修 （右写真：中国電力広報施設での見学の様子）		



4 住民等への普及啓発⑤

IV 避難先・避難経路確認訓練（平成27年度～）

広域住民避難計画に記載する避難経路、避難退域時検査会場、避難先施設等を実際に視察し広域避難に関するイメージを掴んでいただくとともに施設の状況を確認する住民参加の訓練を実施。

【平成30年度、令和元年度実績】

年度	参加地区・人数	日時	行程等
平成30年度	境港市誠道町住民 20名	4月8日(日)	【視察行程】 一時集結所 ⇨ 避難退域時検査会場 ⇨ 避難先施設 <ul style="list-style-type: none"> 移動については広域住民避難計画で設定する広域避難ルートを使用して移動し、移動に要する時間などを体感。 避難先施設到着後は、施設の内・外観を視察するとともに、施設管理者や地元自治体の防災担当者から施設の特徴や周辺環境(医療機関や店舗の所在状況)の説明を受け、広域避難時の滞在イメージを持ってもらえるよう取り組んでいます。
	境港市中浜地区 (財ノ木町)住民 37名	9月2日(日)	
	米子市富益地区 (西中自治会)住民 20名	9月23日(日)	
令和元年度	境港市中浜地区 (夕日ヶ丘1丁目)住民 18名	11月24日(日)	

▲訓練時の視察・説明聴講の様子▲

4 住民等への普及啓発⑥

V CATVによる防災情報の提供（平成29年9月～）

(1) 目的等

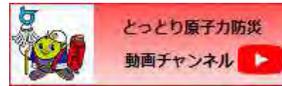
原子力防災対策や日ごろの備えなど、県民（特にUPZ）に知っていただきたい内容を紹介するほか、原子力防災訓練の実施などの情報を中海テレビで放送し、普及啓発を行う。

(2) 情報番組の内容等

ア 番組名 とっどりの原子力防災 ～知ろう、学ぼう、考えよう～

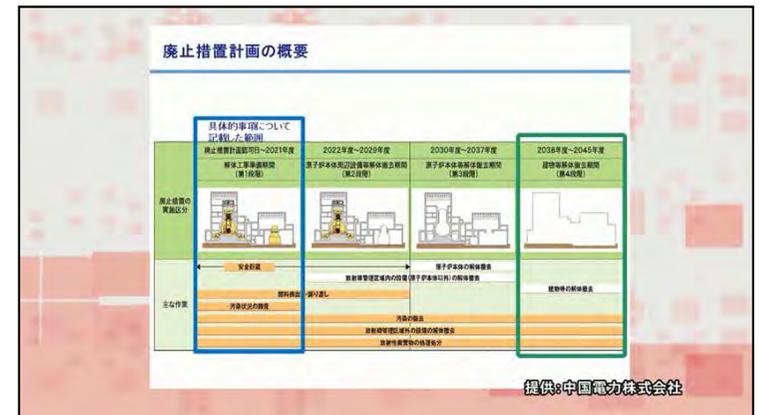
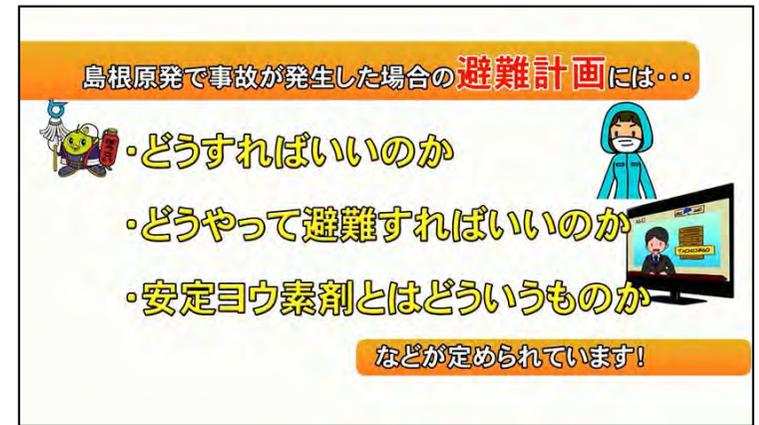
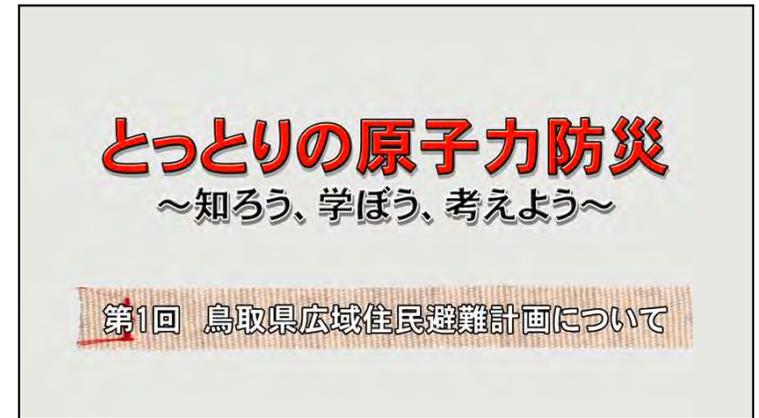
イ 放送回数等 週2回以上。年間計100回以上。番組の長さ2分

(3) 放送終了後、放送番組は県の「動画チャンネル」で閲覧可能



【令和元年放送内容】

年月	原子力防災情報	今月のお知らせ
1月	屋内退避の効果	1号機の廃止措置状況
2月	放射線の基礎知識	地域防災計画等のパブコメ
3月	安定ヨウ素剤の効果	現地研修会の開催
4月	環境放射線の測定(走行サーベイ等)	地域防災計画等の修正
5月	原子力災害医療派遣チーム派遣協定	原子力講演会
6月	環境放射線のモニタリング	現地研修会の開催
7月	広域住民避難計画	船舶避難訓練
8月	1号機の廃止措置の状況	原子力環境センター
9月	避難退域時検査会場	2号機の審査状況
10月	原子力防災訓練の実施	第3回原子力防災現地研修会
11月	県民への情報伝達手段	原子力防災資機材の整備
12月	屋内退避の重要性	原子力防災アプリ



4 住民等への普及啓発⑦

VI 原子力防災ハンドブック（令和2年）、とっどりの原子力防災2019

- 原子力災害時の対応や放射線の基本的な知識の普及啓発のための広報紙、「原子力防災ハンドブック」を改訂。UPZ圏内の他、避難先となる県内市町村の住民向けにも配布を実施。
- 当県がこれまでに実施した原子力防災・安全対策に関する施策等をまとめた、「とっどりの原子力防災」を改訂し防災関係機関等へ配布。（※いずれの広報資料も平成25年度に初版作成。以降毎年度改訂。）。



データは原子力安全対策ホームページ(<http://www.genshiryoku.pref.tottori.jp/>)に掲載予定

5 資機材整備①

【令和元年度に整備予定の主な資機材】

避難所周知システム

1 目的・概要

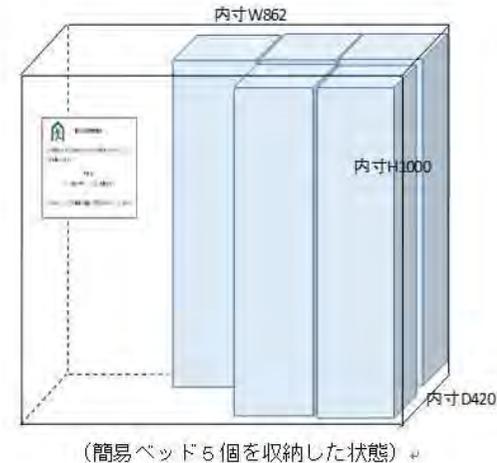
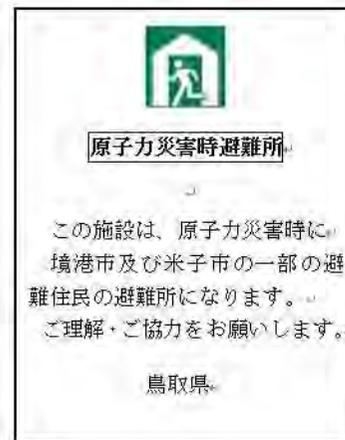
平成29年度より原子力防災ハンドブックを県内全戸に配布し、原子力災害の理解促進に努めているが、避難先地域における避難者受入れ等の周知を強化することを目的として、避難先施設に「原子力災害時の避難所」である旨を掲示した看板やキャビネット、簡易ベッド（避難時に段ボールベッド等が届くまでの間に高齢者等が優先的に使用することを想定）を、施設利用者の目に触れるところに設置することにより、当該施設が原子力災害時の避難施設になることの理解促進を図る。

《設置イメージ》

キャビネットの上部にハンドブックを配架



《詳細のイメージ》



折りたたみ式ベッド5個をキャビネット内に収納

5 資機材整備②

【令和元年度に整備した主な資機材】

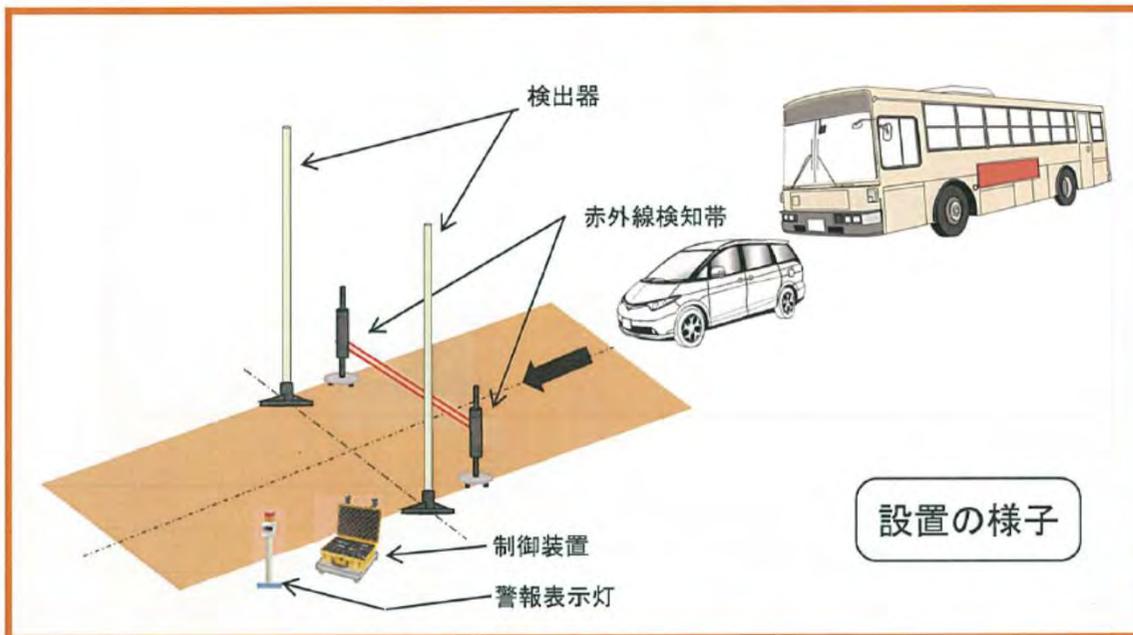
車両用ゲートモニタ

1 目的・概要

避難退域時検査会場で実施する車両の検査の迅速化を図り、交通渋滞の発生を抑制するため、車両が通過するだけで汚染検査が可能なゲートモニタを整備するもの

平成29年度から毎年度2基ずつ整備を行ってきており、令和元年度に追加で2基整備。（計6基）

《車両用ゲートモニタを利用した検査イメージ》



《平成29年度訓練における使用状況》



5 資機材整備③

【令和元年度に整備した主な資機材】

原子力災害医療派遣チーム車両

1 運用開始（予定） 令和2年4月

2 導入目的

原子力災害拠点病院である県立中央病院の原子力災害医療派遣チームが、被災道府県の原子力災害拠点病院への移動等に使用することを目的に整備を行った。

3 概要

衛星通信などの情報収集装備のほか、放射線測定器、除染用資機材を搭載し、原子力災害医療派遣チームの移動、活動等に必要な装備を有する。



エリアモニタ

1 導入目的

放射線防護対策を講じている4施設において、屋内の空間線量率把握に使用することを目的に整備を行った。

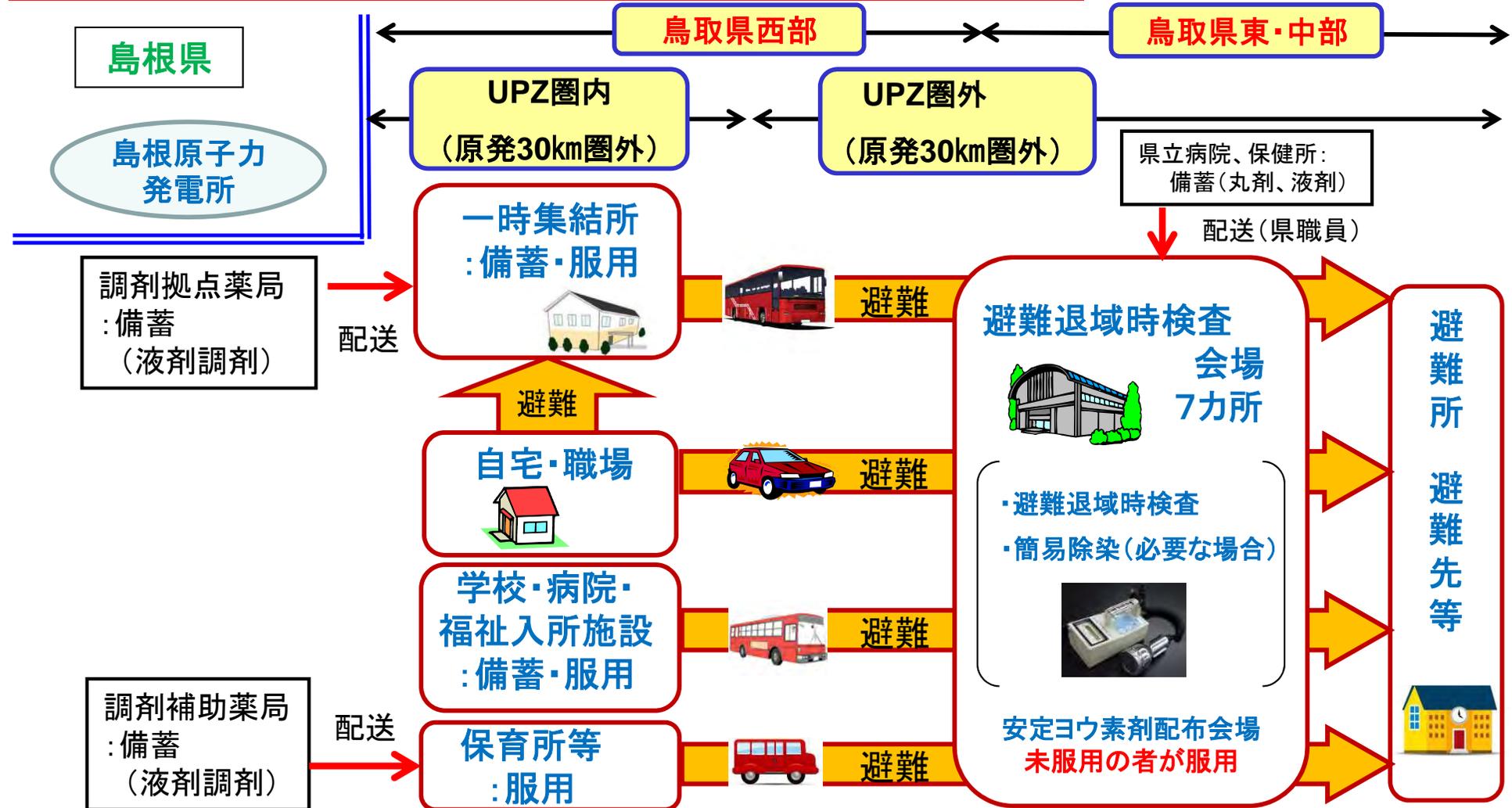
2 概要

モニタ本体で設置環境のγ線、X線を測定し、放射線量をワイドディスプレイによって表示する。



6 安定ヨウ素剤の備蓄及び服用体制

地域住民の全人口の2～3日分を一時集結所等に備蓄。さらに児童生徒用を小中学校に備蓄。また、平成30年度からUPZ内の希望住民に対して事前配布を行うこととし、令和元年度は米子市・境港市の希望者103人に配布を行った。令和2年度から保健所での配布を行う予定。



- ・ 米子市(UPZ圏内)・境港市の各一時集結所(公立学校、公民館等)に、住民用の安定ヨウ素剤を備蓄。
- ・ 学校(住民分のほか児童・生徒分)、福祉入所施設、病院、調剤拠点薬局等、各保健所(避難退域時検査会場分等)にもそれぞれ備蓄。
- ・ 幼児・児童・生徒の保育所・学校からの避難(平日の昼間)について、基本は、保護者の引取り及び家族等と一緒に避難である。
- ・ 服用は、国の原子力規制委員会が必要性を判断し、原子力災害対策本部(本部長:内閣総理大臣)又は地方公共団体の指示により行う。